

2023.9.6 第9回霊的講話 「イエス様に会った女性②」

皆さん、おはようございます。清心祭も間近に迫っていますが、各クラスや各部の準備ははかどっているでしょうか？ でも、この霊的講話の時間は、気持ちを切り替え、心静かに聖書を読み、またお話を聞いてください。

さて、前回と今回の霊的講話では、「ベタニアのマリア」と呼ばれる女性を紹介しています。前回は、イエス様の足もとに座り、静かに、しかし熱心にイエス様の言葉に耳を傾けているマリアを見ました。今回は、イエス様に対して不思議な行動をとるマリアを紹介したいと思います。

今日は新約聖書のマルコによる福音書 14 章 3 節から 9 節までをお読みします。皆さんの新約聖書の 90 ページ、下の段になります。

「イエスがベタニアで重い皮膚病の人シモンの家において、食事の席に着いておられたとき、一人の女が、純粹で非常に高価なナルドの香油の入った石膏の壺を持って来て、それを壊し、香油をイエスの頭に注ぎかけた。そこにいた人の何人かが、憤慨して互いに言った。『なぜ、こんなに香油を無駄遣いしたのか。この香油は三百デナリオン以上に売って、貧しい人々に施すことができたのに。』そして、彼女を厳しくとがめた。イエスは言われた。『するままにさせておきなさい。なぜ、この人を困らせるのか。わたしに良いことをしてくれたのだ。貧しい人々はいつもあなたがたと一緒にいるから、したいときに良いことをしてやれる。しかし、わたしはいつも一緒にいるわけではない。この人はできるかぎりのことをした。つまり、前もってわたしの体に香油を注ぎ、埋葬の準備をしてくれた。はっきり言うておく。世界中どこでも、福音が宣べ伝えられる所では、この人のしたことも記念として語り伝えられるだろう。』」

前回と同様に、イエス様の一行はエルサレム近くのベタニアという村に行かれ、「重い皮膚病の人シモン」と言われる人の家に入られました。「重い皮膚病の人シモン」とは書いてありますが、おそらく以前はそのような病気にかかっていたが、今はイエス様によって癒され、回復していた人だと思われます。そして、そこに一人の女性が入ってきます。ヨハネによる福音書を読むと、この女性はベタニアのマリア、以前、イエス様の足もとに座ってその言葉を聞いていたマリアであると記されています。このベタニアのマリアは「ナルドの香油」と呼ばれる香油が入った小さな壺を持っていました。この「ナルド」というのは植物の名前で、その根のしぼり汁をオリーブ油に溶かしたものがナルドの香油です。このナルドの香油はとてもよい香りがしましたが、かなり高価なものでした。ヨハネによる福音書には、マリアが持っていた香油は約 300g だったと書いてありますが、このわずかな量でも三百デナリオン、少なくとも 250 万円から 300 万円はしたようです。マリアは、一言も言葉を

発することなく、黙ってこの高価な香油をイエス様の頭に注ぎます。少し不思議な光景ですね。

イエス様の周囲にいた人々、おそらくは弟子たちは、しばらくは啞然としてこのマリアの行動を見ていたのかもしれませんが、やがて厳しくマリアを責め始めます。「なぜこんな無駄なことをするのか！ イエス様がこんな贅沢を喜ばれるとでも思ったのか！ この香油を売って貧しい人々を助ける方がイエス様は喜ばれるはずだ！」かわいそうなマリアですね。前回は「何もしないでイエス様の言葉に聞き入っている」と姉のマルタから責められ、今回はイエス様の弟子たちから厳しく責められています。しかし、やはり前回と同様、マリアは言い訳もせず、言い返すこともしないで、黙って自分がしなければならないことを続けます。そこには彼女の深い思いと強い決心があるようです。そして、イエス様が静かに弟子たちに語られます。「この女性を責めてはいけない。この女性は良いこと、そして今しかできないことを私にしてくれた。私が死んで埋葬される準備をしてくれたのだから」

実は、この出来事は、^{すぎこしさい}過越祭という大切なお祭りの直前のことであり、この数日後にイエス様は捕らえられ、十字架に付けられて亡くなるのです。イエス様は御自身の死について、あらかじめ何度も何度も語られてきましたが、弟子たちも周囲の人々も誰も信じませんでした。素晴らしい教えをされ、病人を癒やしたり悪霊を追い出したりする力のあるイエス様が簡単に捕らえられて殺されるはずがないと弟子たちには考えていたのでしょう。しかし、このベタニアのマリアだけは違います。彼女は、イエス様が私たちの罪のために十字架にかけられ、亡くなられることを悟っていたのだと私は思います。当時は、死んだ人を葬る時には、その遺体に香油をたくさん塗り、長い布で遺体を何重にも巻いて、横穴のような墓に納めていました。マリアは考えたのだと思います。私たちを救うために大きな痛みと苦しみ、そして十字架の死を味わわれるイエス様のために、私は何ができるだろうか。それは、大切にしていたこのナルドの香油をイエス様のおからだに塗り、埋葬の備えをして差し上げることだ。イエス様はそのような高価なものを捧げるだけの価値のあるお方だ。そして、それを実行する機会を、今しかない！ マリアはそのように考え、そして、その信じるところを実行に移したのです。

では、なぜ、ベタニアのマリアだけが、イエス様がやがて私たちの罪のために亡くなられることを悟ることができたのでしょうか。それはやはり、前回お読みしたように、マリアがイエス様の足もとに座り、イエス様の言葉に一生懸命に耳を傾け、その言葉について思い巡らしていたからだと思います。ベタニアのマリアは、他の弟子たちよりも、ずっとずっと深く、イエス様の御心をとらえ、理解していたのです。

私は、ベタニアのマリアについて考えるとき、私たちの学園の創立者である聖ジュリー・ビリアートのこと、あるいはインドで貧しい人々や死にかけている人々に手を差し伸べたマ

ザー・テレサのことを思い出します。聖ジュリーもマザー・テレサも、ただ単に「意志が強かった」「信念をもって行動する女性だった」だけではなかったのです。彼女たちも、ベタニアのマリアと同じように、神様の、そしてイエス様の言葉に注意深く耳を傾け、神様が、神様御自身の深みの中から語られたこと、あるいは示されたヴィジョンをとらえ、それを忠実に行った女性だったのだと思います。

イエス様はこのベタニアのマリアについて、「世界中どこでも、この福音（つまり、イエス様の救い）が宣べ伝えられる所では、この人（ベタニアのマリア）のしたことも記念として語り伝えられる」と言っておられます。このイエス様の言葉のとおり、この出来事から二千年以上もたった今日、ユダヤの地からはるか遠く離れた日本にある私たちの学校でも、このベタニアのマリアのしたことが語り伝えられたのです。イエス様が言われたことは実現したのですね。

さて、最後にお聞きしますが、皆さんはどのような女性になりたいですか、あるいは、どのような女性に憧れますか？ 今日の私の話に無理に合わせる必要はありませんから、もしよければ、霊的講話ノートに書いてみてください。

それでは最後に、今日も御一緒に「主の祈り」を唱えましょう。